

いなりぎ 稲荷木遺跡

秦野市No.211

調査期間 2016年8月1日～調査中

所在地 秦野市戸川

時代 近世、奈良・平安、縄文

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北2.5kmの台地上



主な調査成果

縄文時代から江戸時代にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代では、敷石住居や竪穴住居などの居住域と、配石墓や土坑墓などの墓域、配石遺構などの祭祀域が確認され、多くの土器・土製品や石器・石製品などの遺物が出土しています。奈良・平安時代では、竪穴建物などが発見され、江戸時代では、1707(宝永4)年の富士山噴火による宝永火山灰を埋めた「宝永火山灰の廃棄遺構」が発見されています。

特に縄文時代後期は、住居や墓、配石遺構などからなる多くの石を配した集落で、さらに集落の一部を削平し、盛土をするといった大規模な造成の様子もうかがえます。



12区 縄文時代の遺構群



12区 縄文時代の調査状況



16区 縄文時代後期の敷石住居



16区 縄文時代の住居